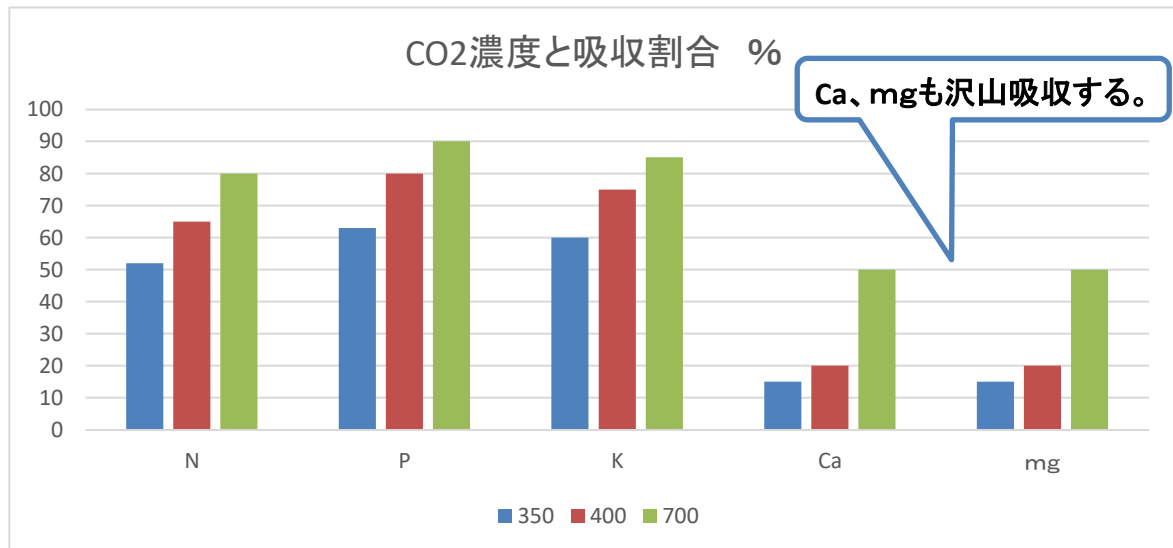


「日中のCO₂焚き」の追肥方法について

R3.10
アグリ技研(株)

CO₂施用濃度に応じた養分吸収割合



CO₂施用時の追肥について(基本的)

- ①基本的には、水や追肥(N・P・K)は2~3割を増す。
- ②グラフの様に、カルシウム・マグネシウムについては定期的に施用する。
- ③生育展開も良くなり根域も充実するので、発根剤や改良剤は臨機的に使用する。

生育に応じてた施肥の時期と濃度

- ①1株当たり肥料で平均で6mgを吸収します、CO₂効果では7mgまで高くなる。
- ②各果房の開花の2~3週前から高くなり開花後にピークとなる。
- ③追肥は出蕾期から徐々に行って開花後から肥大期にかけて行う。

- ①生育中の硝酸態Nは、開花前後には5~10kg/10a当たりの維持
- ②肥大促進期のカリ成分は、10~25kg/10a当たりの維持
- ③養液や土壌中のECの場合は、0.5~0.7前後の維持

効果的追肥について(NO.1)

①開花期~厳寒期

(1)ウルル5号、ウルル18号、カリっとにて肥大促進を図る。

N量で5日間に400~500g要するために、5%の液肥で7~10kgの施肥量(脱Nを考慮)

- (2)コラーゲン・ラボで厳寒期の草勢維持や品質向上を図る。
- (3)アミクエ、フシヨクフルで根域の充実を図る。
- (4)クドグリーンで光合成の活性を図る。
- (5)カル元気・有機カルトップで芯葉や果実の品質向上を図る。